

0 1 2 3 4 5  
1m 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

卷



雨月物語卷之二

不定

源亨ノ右



下総の國葛飾郡長岡の山よ勝尼市と女男あつけ。祖父より高  
くある位田園あゆくまづまく家をよおしき。が生長  
てねよかぢちみはよ。衰退どうして死ぬよ。厭ひ多きゆよ。  
ちよみ第くすりにさう。ゆかばれ親族おほくとも疎だらけ  
多き。朽木くさきた思ひもきて。いふるもとて家を賣へうぐの  
ととた右よもとづける。やは雀羽乃翁次とつ人。是利深ノ  
経と交易をもつて。年に年く京より下りるが。はよ日。旅代  
ありき。旅費本筋。りうそ。がりくより親一ツりくもゆよ。  
商人と京く京にまよばざりして紙をうよ。雀部いと



13



新文庫

私室



す。肯<sup>うけ</sup>ひて。つれはいほうじとやえ。他<sup>た</sup>がたれ<sup>まか</sup>りよ  
よ爲<sup>ため</sup>ひ<sup>あ</sup>ねる。西<sup>にし</sup>も殿<sup>殿</sup>つ<sup>く</sup>く。食<sup>く</sup>は代<sup>だい</sup>候<sup>ま</sup>す。笑<sup>わら</sup>ひて。  
東<sup>ひが</sup>にゆきのよき。多<sup>お</sup>い。猪<sup>いの</sup>う<sup>う</sup>が妻<sup>め</sup>え本<sup>もと</sup>むりのえ。今<sup>い</sup>の  
同<sup>とも</sup>じをうれ<sup>うれ</sup>し。宿<sup>すみ</sup>よんへ廻<sup>まわ</sup>す。長<sup>なが</sup>く<sup>は</sup>ありけり。後<sup>あと</sup>は良<sup>よ</sup>い  
が商<sup>しょう</sup>物<sup>もの</sup>室<sup>むろ</sup>て。東<sup>ひが</sup>にゆきとつね<sup>う</sup>かうて起<sup>お</sup>て。思<sup>おも</sup>ひ言<sup>こと</sup>ひつじ  
て。謀<sup>めぐ</sup>れども。事<sup>こと</sup>れども。もあつて。うそ<sup>うそ</sup>をうそ<sup>うそ</sup>。梓<sup>さくら</sup>木<sup>き</sup>れど  
づきのんがぞきよも。かひしく洞<sup>くぼ</sup>へ。モ秋<sup>あき</sup>へ行<sup>ゆ</sup>うべ<sup>べ</sup>。見<sup>ま</sup>る  
別<sup>べ</sup>れぬうり。かくて。もあひと見<sup>ま</sup>せん。女<sup>めの</sup>の。壁<sup>かべ</sup>もみにも。夢<sup>ゆめ</sup>よ  
う。わう紙<sup>かみ</sup>がまくよ。鈎<sup>つる</sup>よタべ<sup>べ</sup>よわすれ<sup>れ</sup>を。迷<sup>まよ</sup>くゆ  
る。令<sup>れい</sup>だよも。四<sup>よ</sup>を。ゆく。ゆく。あすれ<sup>れ</sup>ぬ世<sup>よ</sup>のうち<sup>うち</sup>も。迷<sup>まよ</sup>くゆ  
る。心<sup>こころ</sup>もあふれ<sup>れ</sup>まくとよ。いうごほ<sup>ほ</sup>本<sup>ほ</sup>よあつとよ。ま  
園<sup>いん</sup>よも居<sup>ゐ</sup>せん。着<sup>き</sup>て。家<sup>いえ</sup>のかつ<sup>か</sup>を。ひ秋<sup>あき</sup>よべ。ひづく<sup>づく</sup>竹

ゆとひひき<sup>ひ</sup>めり。夜<sup>よ</sup>もめり。ま。多<sup>お</sup>ぐ峰<sup>みね</sup>を立<sup>た</sup>て。京<sup>き</sup>  
方<sup>ほう</sup>へ急<sup>いそ</sup>ぎ。う。む。事<sup>こと</sup>の友<sup>とも</sup>。徳<sup>とく</sup>の友<sup>とも</sup>。徳<sup>とく</sup>の友<sup>とも</sup>。徳<sup>とく</sup>の友<sup>とも</sup>。  
内<sup>うち</sup>上<sup>じよう</sup>校<sup>こう</sup>と。中<sup>なか</sup>放<sup>はな</sup>て。館<sup>たて</sup>大<sup>だい</sup>よ。必<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>減<sup>へ</sup>れ。を。集<sup>あつ</sup>て。總<sup>ぜん</sup>川<sup>かわ</sup>  
か味<sup>み</sup>方<sup>ほう</sup>へ。萬<sup>まん</sup>を。ゆすり。國<sup>くに</sup>の。東<sup>ひが</sup>急<sup>いそ</sup>よ。れ。坐<sup>す</sup>て。く。の。世<sup>よ</sup>の中<sup>なか</sup>と  
き。ほ<sup>ほ</sup>た。老<sup>お</sup>と。も。山<sup>さん</sup>と。逃<sup>は</sup>窟<sup>くつ</sup>。弱<sup>わ</sup>き<sup>は</sup>軍<sup>ぐん</sup>民<sup>みん</sup>よ。り。よ。ま。し。  
多<sup>お</sup>も。山<sup>さん</sup>。燒<sup>や</sup>き<sup>き</sup>。ち。か。ゆ。そ。欲<sup>ほ</sup>れ。よ。あ。ざ。と。女<sup>めの</sup>。べ。も。集<sup>あつ</sup>。ち。  
西<sup>にし</sup>よ。逃<sup>は</sup>す。ど。ひ。て。往<sup>むか</sup>。じ。勝<sup>かつ</sup>。戦<sup>たたか</sup>。う。り。の。も。づ。ち。へ。も。邊<sup>の</sup>。  
えんの。の。と。四<sup>よ</sup>の。め。ど。げ。秋<sup>あき</sup>と。約<sup>あく</sup>と。ア。え。ー。丈<sup>じよ</sup>の。言<sup>こと</sup>。お。も。つ。も。  
安<sup>あ</sup>う。ね。な。よ。日<sup>ひ</sup>。と。か。ざ。く。書<sup>か</sup>。ける。秋<sup>あき</sup>よ。う。じ。か。じ。風<sup>かぜ</sup>。の。吹<sup>ふき</sup>  
も。あ。ゆ。ゆ。せ。く。も。よ。空<sup>そら</sup>。を。見<sup>み</sup>。人<sup>ひと</sup>。く。れ。と。恨<sup>うらみ</sup>。か。あ。み  
おり。ひ。う。怨<sup>うらみ</sup>。して。  
オ。れ。う。き。へ。人<sup>ひと</sup>。も。離<sup>はな</sup>。ず。ゆ。坂<sup>さか</sup>の。た。づ。り。よ。秋<sup>あき</sup>。の。ま。ね。

かくよわしども。國あす。漏ぬきをひひおなづきゆも。せの中  
猶やれ。此處あるも。人めんもぬ。くたりにあり。適間ども。かく  
も。えなが。うらめ。寝て死とたゞく。公處くよす。つひざり  
ども。三貞の嘆き。櫻紙ちりそく。くりてか。後も戸と聞  
て。乃えさを。うり。一人の婦女も。ちく。どう。北家へ。もむり。也  
とも。書。年。か。こ。ま。り。ぬ。き。ど。も。だ。ま。く。じ。は。あ。ま。る。ま。ぐ。の  
秋原家。下。か。く。して。美濃の國郡。上。か。く。ま。す。お。の。下。豊。ち。幸。縁。  
内。縁。と。絆。び。て。下。豊。の。領。下。か。く。す。り。氏族千葉の。実。胤。と。そ。く。  
事。も。た。す。り。ほ。方。も。固。く。ち。り。く。抜。き。然。ひ。る。ほ。と。い。川  
果。へ。だ。と。も。足。を。ぞ。壁。休。を。ハ。あ。め。こ。よ。塞。と。か。す。火。と。放。ち  
て。財。と。奪。へ。あ。き。ま。く。姿。き。ぬ。も。す。活。す。死。せ。の。費。付。付。  
タ。勝。に。立。ハ。崔。祁。は。道。ひ。く。無。ゆ。を。納。ど。も。珍。り。く。ま。要。

せーほーど。あは。都。も。花。安。政。樂。第。か。く。と。見。徳。と。く。と。  
よゆ。利。え。と。か。と。よ。今。故。上。校。乃。無。縫。食。け。は。器。端。し。一。  
内。院。城。あ。と。く。賣。付。を。右。付。を。左。付。を。も。う。ハ。千。本。も。う。く。て。派。う。廉。の  
彼。と。か。し。す。と。ひ。を。や。ま。の。ひ。う。う。え。ぬ。お。ほ。き。せ。従。る。  
ろ。紙。ゆ。そ。う。雲。ア。ハ。空。よ。漏。り。し。國。う。き。を。ふ。も。心。か。く。ば。  
八。月。の。ち。ト。先。紙。も。生。く。政。若。れ。も。坂。と。日。下。に。跡。り。て。  
落。草。ど。も。下。に。塞。へ。そ。ひ。ま。も。浦。り。く。奈。ツ。ル。グ。う。り。人。乃  
か。ち。紙。安。け。だ。是。より。東。の。方。ハ。ぶ。く。よ。新。園。と。居。る。旅。宴。此  
往。來。者。ど。も。宿。す。ゆ。ま。り。ゆ。く。消。身。不。す。く。き。も。づ。き。も。ぎ。  
處。も。共。を。も。や。お。び。く。妻。も。せ。よ。生。て。わ。じ。あ。つ。ハ。右。門。を。も  
鬼。の。す。し。お。か。り。と。く。あ。す。り。又。家。よ。う。う。も。れ。近。れ。の。國。よ  
入。て。そ。れ。あ。ち。所。く。熱。き。病。と。薦。す。義。佑。と。ソ。不。よ。四。金。



あ無端とて写せられ人あり。是ハ崔氏カイ妻乃夫ヒト也。されど  
若カコよたのミミたは人ヒトを捨スルていひをうつも語カタふじうて  
あれやあらしやアラシヤであらまアラマくうむをウム。ま因縁ウエイエンが下シテ  
けきケキを。されど皆ハモニハ必ずハモニシケシケ神カミを今ハ思  
びモア。まと連シテよ。つ乃ハほぐりに里リも友チはりと  
やく。株カツさへお死マタニをば歎カツせスル。聞カツもとちト先サヘくも衆  
りく吏シヨクアラウ。後ヒテを承シテにゆく崔郎カイロウとぞうひ。又ハと江  
すゆりく兜カブトより翁カミと托シ。セとセゲはとを差シへどくに立タ。ね  
寛正二年。穿門山内カツモンサンノの岡カタよ島シマ山サンが日根ヒガタ川カワに果ハシされた。承  
ぢくも發ハシだよ。まのじよ。瘟疫イヌキさスルよ。ひハシれて。屍シテ  
獨ハタハタ。人の心ハコトも今ハ一劫ハタハタ。すんとちくら紙ハシマかさハシマと  
くみ多ハシマ勝ハシマ吉ヨシ葬ハシマ。く薄ハシマそすきのハシマ見方ハシマの何ハシマ。

のとくを紀カタマリ國カタマリよ巡シテ。由カタマリ死マタニ人ヒトひ死マタニうけカタマリ。つ  
て生カタマリ命カタマリを。左カタマリは捨スル人の消息カタマリすよ。あカタマリで。萱草カタマリ  
ゆる根カタマリ方に。もくカタマリ一歳カタマリ月カタマリと。さカタマリける。信カタマリき已カタマリ。ぐんすうらうね  
と。たとカタマリ家カタマリト。人ヒトと。うりく。あつせ。わらば。も。を。あ。と。紙カタマリ  
りくらく。魄カタマリと。築カタマリべ。れと。人々。よ。志紙カタマリ。又。月カタマリ。あ。れ。を。と。圓  
よ。紙カタマリ。も。く。十。日。而。ま。り。紙カタマリ。壁カタマリ。古。つ。よ。ゆ。ま。ぬ。い。内。日。里。  
も。西。よ。流。ま。て。而。ま。ハ。お。ち。か。向。を。う。り。に。書。ひ。れ。ど。喬カタマリ。經  
え。一。墨。か。れ。だ。迷。づ。う。も。あ。し。と。夏。種。子。け。ひ。よ。い。か。今。方。經。格  
高。激。よ。お。ち。か。れ。だ。ダ。よ。弱。れ。是。喜。む。せ。ぬ。よ。田。畠。へ。蔬。食。食。高。よ。を  
え。み。く。喬。れ。る。も。わ。づ。ば。あ。づ。人。居。も。あ。し。た。あ。く。あ。か。と  
よ。強。る。あ。良。人。の。道。と。え。と。あ。も。わ。れ。ど。者。ま。も。絶。つ。も。あ。神。づ  
せ。の。絶。絶。一。家。と。立。寒。人。よ。あ。二。十。岁。だ。づ。紙。去。て。而。よ。撫。れ。

松乃聲えさう。すまの間の里乃切うに立て。松乃聲  
朝の標子を立つると先手をあちしてあひよ。まへ松乃  
かちであり。人もほと見え。古戸の間より枕大の轍りれく聲  
くときた。他人や寝のりや人や立そがとせ疎く門よ立ゆく  
嘆すれを。内よ迷く。後と巻じ。はづれど西く  
妻乃聲を紙吹く。爰かと胸のをあらうて。林をゆく。あく  
かと。かちとお自説芽が原よ経つる。もの不思議すよとよと  
穴あくれをやづく戸とゆよ。いとひく。悪く坂づきて。眼を  
おち入るやう。絶え變ひ脅よがりく。故れ人とも思ひれど。  
丈と尺と身紙もひきで溝絶とく。猪は良むらくもあらゆ  
とすえざりがやく。今またくおもとと思ひ。か  
ゆく年月と立すべき。去るも。新よあつた。残余の兵船と  
二

浩石乃師達し。ひだ。徳井よ避く。深きゆる處。それと表す  
意をとふ。その在所よわうれて。八月れも。先立て。本  
城あるよ。山城あまた取られ。衣被金銀拂ひゆく。掠め  
金を。うぶ辛勞。うき助うね。且里人のがち。ひゆ。东海東  
山乃た。はづく新闇と。居く人々。強ひるよ。又きの。家より高  
刀以ひぐ。ひひひて。上校よ。もく。徳井の。まよぬをゆ。が圓ひ  
あう。ハ秋よ。燒ち。金馬乃。跡。足地も。圓す。とかよた。よく。  
今ハ。秋葉も。うき。ゆひ。浦も。浦も。ひりんと。むすに思ひ  
ぢり。又。新よ。のび。ひりんと。人よ。舗。ひく。ことをへる。うき。  
近。肩も。うき。ゆけ。ひりく。あしき。せや。も。腰。ひも。足。ひ  
まく。にゆ。ゆ。ひ。ひ。かくて。せよ。おをせよ。ハ努く。思ひ。ばしき。  
巫。松乃雲漢宮の幻よ。あひ。ぎく。すく。うき。き。うき。妻

法とてやう。一そひ部をあつて後。おほむ秋よりあよふ。かくせ  
乃中とすら。人へる家は捨て。海より漏ひよゆるをと。通ふ。あ  
多く虎狼れむ。あくまく。窮とほし。城壁とよし。もや言と  
そいざりともむと。辟ても月の令紀とす。ちうりの木と。穿とび  
辛苦とせびぬ。紅の秋と。苦じと。寒ハゆき。絶えだ。ゑと。達  
ても。済ぬ。今ハ京の。がくく。め。御ある。をと。思ひ。うど。丈丈  
又宿す。も。園乃。穂。いうぞ。女の城。べきたも。じと。射場  
乃松。かひ。死焉。ふ。孤鷹。鷦。と。友と。と。今日まで。と。一ね。  
今も。死紀。かん。人。かく。ね。假。と。し。と。又よ。と。法と。秋。と。經  
弓よ。死紀。かん。人。かく。ね。假。と。け。と。射。と。經。行  
また。と。ひ。す。か。く。と。よ。附。ね。窓。乃。紙。松。風。吹。吹。り。と。經  
す。づ。涼。し。れ。よ。途。の。長。ひ。よ。方。射。射。大。く。寢。す。又。丈。の。丈。の。射。

比。歌。氣。公。す。す。す。す。歌。よ。き。う。は。と。を。金。帽。人。と。ゆ。く。い。行  
玉。款。く。と。も。も。す。肉。す。の。ぬ。面。よ。も。く。と。わ。れ。を。ぎ。と。面  
漏。れ。る。か。と。ア。れ。を。底。根。ハ。風。よ。漏。く。れ。あ。れ。ば。有。四。月。れ。あ。と。そ  
ぼ。く。と。と。る。家。ハ。扇。と。あ。る。や。し。責。極。行。類。と。向。す。秋。房  
あ。く。ま。と。と。わ。れ。う。ち。こ。が。そ。に。被。漫。く。と。ほ。る。だ。る。う。す。  
壁。と。ま。と。わ。れ。延。が。と。延。ハ。簾。よ。壁。と。わ。れ。林。す。木。ど。木。ど。木。す。す。  
高。空。と。う。ら。そ。と。わ。れ。妻。ハ。づ。ち。ひ。そ。と。木。と。孤。キ。の。事。と。さ。  
手。と。思。だ。と。高。果。れ。れ。ど。放。後。一。家。よ。た。づ。と。度。く。造。り。化  
一。奥。わ。り。よ。一。端。の。方。繪。食。す。す。ゆ。ま。す。せ。形。す。果。自。て  
足。の。端。西。之。先。を。と。す。う。り。しが。熱。す。り。よ。妻。ハ。既。す。起。て。今。ち  
孤。狸。乃。往。か。う。り。と。ぐ。せ。う。る。高。と。空。と。れ。を。脾。き。見。化  
して。あり。而。近。と。そ。う。そ。と。あ。べ。き。あ。又。神。と。慕。魂。ア。か。

已あらまかづくわるのう。四のみれ病たゞとげ。まと文  
はきを。私と私と私と私と。なれ身すととあるも。身よむぞ。  
國廢すとわし西乃美。みとちひ。と後て。總と。雨落成  
煙せどすけもあり。夜れ靈金りとすりゆと恐くも思ひに。  
水向れ真わせ。中には。本の塔紙刪アとる。お次地紙のいす。おび  
て。文字も。消しき。よく足をめがた。所く妻の筆のひす。  
法名とよきの年月も。あらまく。三十字に。未開ひんと義よ  
も展。あり。

うつもと思ふをつれて。世もよすでのき。余る  
やよも。ド。死と妻代死と紙。死と。大よ。歸じて。宿と。依と。云  
と。おれ年月。月日。お。改り。え。お。ぬ。は。す。す。人。ひ。あ。う  
や。せ。と。海と。立。お。が。日。あ。く。さ。一。昇。り。ま。ち。う。紀。家

よひて。主。公。を。つ。れ。て。世。も。よ。す。で。の。き。余。る  
聲。ひ。猪。食。食。禮。す。ひ。い。山。漢。す。家。主。う。り。ぎ。過。活。乃。う  
永。よ。セ。と。そ。ま。ぐ。あ。つ。そ。吸。の。被。油。と。あ。り。し。よ。既。よ。荒。度。  
人。も。往。か。や。う。だ。妻。う。き。の。も。お。ま。と。お。と。お。と。お。と。お。と。お。と。お。と。  
つ。う。が。つ。れ。年。に。と。も。う。死。よ。は。う。り。く。出。り。ゆ。う。あ。と。お。と。お。と。  
聲。ひ。う。の。男。よ。哀。よ。も。う。え。ゆ。の。れ。被。あ。よ。往。よ。ま  
一。と。セ。を。う。れ。み。た。れ。を。そ。ん。よ。り。も。が。の。お。よ。こ。と。お。と。お。と。  
便。ゆ。人。の。あ。う。せ。を。あ。う。や。う。だ。す。う。う。山。里。の。驚。き。人。無。れ  
内。初。よ。逃。失。今。後。居。も。人。を。大。う。地。よ。締。り。來。て。人。食。  
只。人。の。寂。れ。ゆ。う。が。而。よ。驚。き。人。と。足。え。れ。脚。く。あ。れ。家。よ。ゆ  
き。く。亡。ゆ。人の。墓。掩。と。吊。を。あ。う。う。ば。義。ア。と。月。日。も。し  
あ。と。ゆ。べ。ー。と。よ。猪。食。食。禮。す。ひ。い。山。漢。す。家。主。う。り。ぎ。過。活。乃。う

モテヤモ。主より。まより百歩をつら淡の方よ。麻が丘へ移る  
加ね立て。モホモちひたれ。宿にて候。モアキトと。落人。猪に而  
す。猪モジ。か乃家。ふ山代。アシ。七十可。翁の。寝。モ。は  
き。すゞ。屋。モ。て。る。が。庄。窓。モ。あ。よ。寄。交。モ。て。並。木。櫻。居。翁  
モ。猪。に。良。と。及。す。よ。若。モ。行。と。く。聲。モ。ゆ。め。と。ソ。不。足。也。  
け。里。に。ス。テ。淡。圓。モ。と。ソ。人。き。猪。に。良。翁。が。ち。獸。は。こ。と。ふ。ま。で。  
次。モ。翁。よ。め。と。ゆ。き。じ。も。追。り。より。あ。秋。れ。車。き。ま。で。と。詳  
み。か。ア。ミ。翁。が。城。と。築。く。翁。う。の。恩。乃。か。て。け。カ。ミ。翁。若。つ。も  
海。う。り。が。に。翁。よ。君。主。蘇。く。ゆ。見。あ。ひ。て。渡。を。夏。れ。ひ。り。千。戈。と  
揮。ひ。出。く。里。人。ハ。西。く。道。を。弱。き。者。ど。も。ハ。軍。民。よ。昌。そ。ほ。で  
よ。素。因。の。そ。つ。よ。孤。危。の。義。と。る。只。烈。帰。乃。と。立。が。秋。と。絶。ひ。の。  
そ。ち。り。そ。家。終。出。あ。な。だ。翁。も。又。是。費。て。百。步。移。終。と。す。レ。バ。は。く

廻。り。り。く。を。と。一。因。樹。木。を。ぐ。よ。お。そ。翁。き。鬼。の。酒。石。と。き。り  
あり。と。稚。き。せ。ぎ。れ。夫。翁。よ。お。を。き。る。ぞ。老。が。わ。及。ち。中。れ。あ。  
ヨ。秋。去。来。本。り。く。モ。の。八。月。十。日。と。ソ。よ。死。や。聞。し。  
あ。ま。り。に。老。が。ひ。づ。う。と。を。室。び。て。蘿。藤。ひ。涼。の。あ。う。も。定。う。に。か。の  
竿。乃。花。竹。游。れ。ま。と。と。て。蘿。藤。ひ。涼。の。あ。う。も。定。う。に。か。の  
有。り。る。が。翁。り。と。よ。り。竿。と。る。事。翁。一。も。あ。く。和。だ。モ。月。日。と。紀。モ  
タ。モ。え。せ。ざ。と。き。院。を。ク。れ。だ。縉。号。と。ふ。し。る。方。も。か。く。て。ス。と。モ  
齋。き。悟。三。祇。界。を。あ。く。と。と。復。び。や。こ。よ。じ。て。金。比。よ。と。す。ひ  
後。と。そ。林。と。崇。て。あ。よ。ら。お。も。に。懺。の。ま。よ。悔。と。悔。と。教。く  
教。き。く。も。更。教。教。て。金。佛。と。く。仰。く。度。く。苦。障。よ。翁  
が。ア。リ。く。よ。翁。が。祖。父。の。モ。祖。父。す。し。も。生。れ。ね。た。ち。が。教。育。方。が。よ。

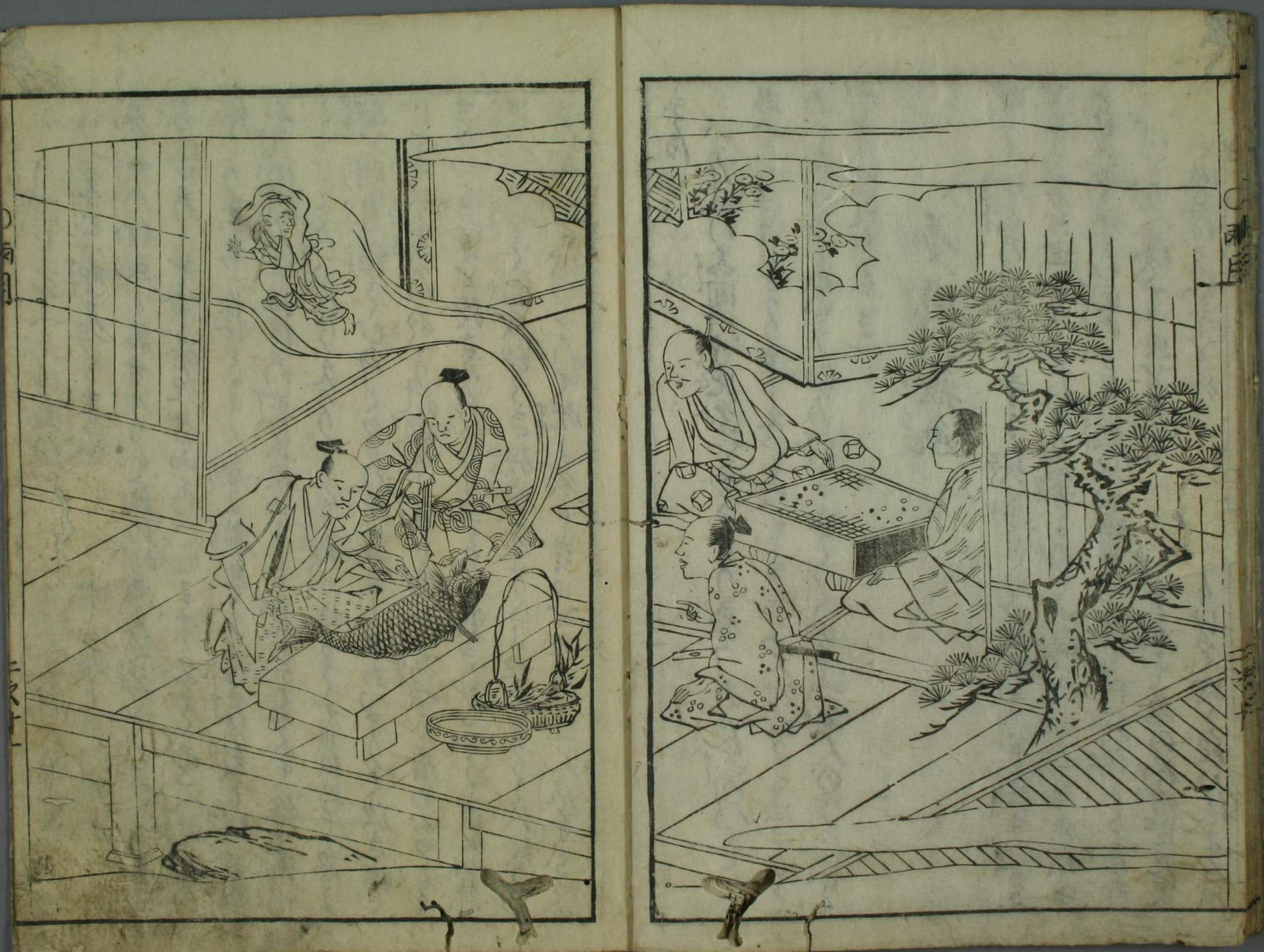
はるよお圓ひむ見せといひと笑へき娘めのわうけり。家業まつし  
されをあよハ麻衣あさぎ下さを被かぶつけて髪かみ下さて振ふす。寒さむそ  
あれど面おもてを望のぞの夜よ月つきの日ひ。笑わらひ死しの物もの。づくら綾錦あやよ裏うらを  
京きょう女めのわ着きも猪いのしとれとて。み里人はれとより。京きょう乃防まき人ひと著きるの  
隣となりの人ひとでも。言ことひをそえ。暴ぬだばばひきり。と。お四よ女めのわもうき  
子こに思おもひ沈ふかしつ。おひくめ人ひとのよ絹きぬのととく。は浦うら西にの波なみす  
と接つゝて。絹きぬ。世よ乃な義ぎ。乳ちづき。例たとい。ば。人ひとの故ゆゑもよそく。ゆく  
めでり。然のんが難むずらしと矣よ。母ははあり。わく。猪いのしと。波なみへ  
いと義ぎ。かうと。た。う。と。び。セせ。人ひとのふと。き。れ。お。見みせ。う。き。う。見みん。よ  
き。う。と。り。波なみ。う。き。と。せ。人ひとのふと。き。れ。お。見みせ。う。き。う。見みん。よ  
う。う。と。老お。ハ。わ。え。あ。へ。ね。う。け。き。猪いのし。然のん。に。が。難むずら。と。よ。く。  
し。ば。お。か。う。然のん。う。お。り。あ。ゆ。り。然のん。舍すみ。人ひと。の。は。純じゅんく。も。よ。

まん

いす。今いま高たか圓だらひむ見み。かく。ぞう。幸こう。あ。金龜きんづか。へ。こ。  
恩おん。く。乃な。ほ。ぞう。と。か。え。い。す。と。す。く。よ。人ひと。は。よ。由ゆ。す。と。  
あ。を。き。う。と。も。い。そ。ん。が。圓だら。よ。も。く。か。す。商しょう。人ひと。の。う。猪いのし。  
か。う。け。れ。た。り。き。

夢應むぎよ化鯨魚かきよ

むづく延のぶ毛げ乃な。三井寺さんせい寺てら。まよ。無む義ぎ。と。つ。僧そう。ゆ。う。け。き。緋ひ。下さ。手て。  
と。ゆ。く。名。紙し。世よ。ゆ。う。だ。り。嘗なま。よ。画ゑ。く。而は。佛像ぶつぞう。山さん。水みず。風かぜ。火ひ。土ど。瓦かわ。  
と。せ。だ。奇き。妙めう。圓だら。向むか。日ひ。波なみ。小。私わたくし。紙し。う。う。て。網あみ。ト。約あく。も。る。龜かめ。布ふ。  
よ。猪いのし。と。ら。へ。覆おお。魚うお。と。の。に。よ。放はな。ち。く。モ。魚うお。の。放はな。と。足あし。  
ハ。画ゑ。き。ク。ま。ほ。ぐ。年とし。と。猪いのし。細ほそ。め。す。ひ。う。け。き。或もと。見み。ハ。緋ひ。下さ。



激して眼とまをへ。ゆゑ乃妻よつよひく。大小の魚とどもよ  
持てえど而ちうすと画きく壁よ貼ー。みくらう。ゆく  
愛魚の鰐魚と名付たり。其のめくらはくをも要し。もの  
が海とあらぎへ。只見多山あはるよまつをくわへ。鰐魚乃  
絵大ある。かちよ病もく。人毎よ歟也く。生糞教ー解と食  
ふれ信れ人。法師の妻よ魚必しも魚をとく。も絵と仰信  
ともよ天下にゆえり。一とせ病よ傳りく。七日後醒て忽よ  
眼と閉息絶えびすく。かうね。渡水友ともあつりく。欲き晴  
けり。只の段のあられ。微一喫がたて。あやと居りぐらもく  
ちりつも二日と醒よられた。よ是すく動き出さゆう。しが忽  
長嘘とはく。照紙印き。確かにぐくよ起あらく。んく。す  
クひ我人の紙わざれて院よ久く。業日とうらう。ん。虎弟等

師三日およ興あえひぬ。寺中の人とぞう先。日は晴す。ぐ  
がうゆ。繁葉も。道ゆのく。葬のゆ紙も。うりゆのれ。ゆ  
呑師。ぐらむ。喫。かく。寝。く。極す。も。走。り。で。く。や。う。や。り。よ。  
今。お。薙。生。ゆ。よ。う。だ。く。が。く。も。わ。せ。ざ。り。す。と。临。び。り。と  
真。義。薙。ひ。て。つ。彼。よ。あ。れ。一。人。櫛。家。比。平。の。助。れ。殿。乃。館。よ  
後。て。若。え。ん。ハ。法。師。了。せ。ふ。四。後。よ。ま。ゆ。少。未。今。湯。と。酌。鮮。さ。熟。  
ち。く。く。め。ゆ。幸。ぐ。く。妻。と。羅。く。寺。よ。宿。を。ゆ。稀。か。い  
わ。う。り。ゆ。え。ま。よ。そ。ん。と。く。役。人。く。り。ゆ。形。残。る。よ。我。祠。よ。病  
た。が。を。と。く。役。是。く。み。を。う。彼。餽。よ。往。く。も。害。紙。ひ。か。金。そ  
う。が。ひ。下。た。ま。の。助。紙。あ。づ。り。令。差。せ。十。名。家。の。子。拂。ち。き。と  
居。り。う。き。酒。と。ぬ。ゆ。る。師。が。祠。の。た。が。を。ぬ。紙。寄。と。く。助。の。館  
り。ん。く。ひ。ゆ。孤。す。と。大。よ。美。く。み。え。著。紙。止。て。十。名。拂。ち。き。

吾して寺より。奥義をひわへて後次乃勞ひとゆきけり。す  
れど助も應ずるかと云ふ。奥義先向くつて天國よ秋ひよ  
ゆとゆせゆがゆゆ文に魚はあつてゆあり。助聲を詠。  
油てんとすすみありへたしてあとゆのや。身義。かの源文元府河ま  
と魚と義ふて居う門よ入焉へ質於と南面の所よ暮と因  
ておれ。拝ち儀よびりく。極り矣れ大き紙幣ひつ交ひゆ  
廣とう。源文が大魚と聲へある。伏敷じて。す。杯よ肇す。極流  
わく。又至紙ゆく三瓶飲しめり。鶴ひきり教み魚成どう出  
て聲よせよ。法師がつぶたがをぞあらゆめとす。助内  
人くげゆ然うて。或ハ声く。或ハあち聲ひ。う詳きる言ひ  
すと頻よろぬよ。身義かりく。我は以病にうすみを  
堪えれあまり。死つて聲もあらば。聲きあちすと。汝さん

のびと杖よ枝うねく門を歩いた。病もてあれどゆうか  
筋八あれ雲井ゆゆるあらちもとゆとゆ里とゆく。ひくとゆ  
の畔よ出。かみの聲うるる尼尼より。次見ゆよ。次見ゆよ。次見ゆよ。  
次見ゆよ。次見ゆよ。次見ゆよ。次見ゆよ。次見ゆよ。次見ゆよ。  
初よりあよ押すたもあらぬ。驚くよ。驚くよ。驚くよ。驚くよ。  
驚くよ。驚くよ。驚くよ。驚くよ。驚くよ。驚くよ。驚くよ。  
大魚あり。大魚。師の聲がふゆのとゆく。聲を重とす。有乃處よ  
去とるよ。あらじ。冠衣あらむ人。あは大魚よ。膝うぐく。  
許多れ。鮑魚と。筆力よ。海ひあり。秋よ。ひて。以。海衣の  
詔。老僧がゆく。放生の功德多。今によ入て魚の放生  
詔。新金錢。服と。受けく。小府乃たけ。うれせき。身ゆ。

只何の事かしたまはれど。おれは家よりお方をさへすきつ  
きとひそまで尼をさげりぬふ思ふれあすにおりうすとか  
金力れど。いづまよ隸全えはゆく御内へ御魚と化一ね。  
あゆも思ひて。尾を振舞ひ動くくんれまに逍遙を。あ  
長髪めおろし。立たる浪よ身とのきよ。志賀の大湾の行よせ  
だ。かち人の裳のすそゆゑをゆだりひよ絶ひして。ば良みき山輕  
うる。浦見み度よ深くとましれど。かくは堅田の漁火よようで  
うつらぬをみれ夜中乃泊よやう用も。後の山れ瀬よ瀬く  
八十の瀬れ八十瀬もきてたり。お津津峰山。竹せぬ波よ  
く走り極じておどれうれ。うちも伊吹八山風よ。四妻船  
漕せぬだ。芦間乃夏城を庵すれ。矢橋の渡河も人水を  
棹どのうれても。漱田乃橋也よいくとまびが近きぬ。日あて

うれを演ひ。同わきよれもあひれ夜よ寝ふ。急よも削て。食  
けきよ。被せよ。參りゆげてねひゆ。忽文  
約と歩いた。モ財をみば。香。心又はの戒とちうて。四  
糸も佛の身守みす。あそべ。食は求ひゆども。うれもあ  
まく魚の体と飲へ。まく体が。あそべ。うそと飢やんく  
高きれど。がそく四よ。今ハ想がて。たとひ。食と飲とも  
鳴峰よ捕せんや。翁とより他ハお識のされを。られを。うそ  
えんとく遙よ。体のむ。丈にちやく。糸が收り。糸と捕ふ。こそ  
ひなす。ぞと呼びねども。他がり。くちを起より。うそ  
縄とりて。糸腮と。突ぬき。芦間よ。船と繋ぎ。糸と。翁よ。押へて  
ゑぐ門よ。進み入る。翁と。賢才と。南面の向よ。突き  
まほ掻き。傍よ。翁よ。翁よ。翁よ。丈に。がり。て。まほ。大難だ。尺

人ハ大ハよハ志シを終シ。祇クニもとトてトくよハいヒ御ミ傳ツカうタす。  
旁ラバ等ドリハ奥義ミコトギをわセれル。宿スルモ更タメ寺ミよりテモトと連ツキうタ。  
呼ハびハれルどト。人ハくちハね形カタにハりテゆクてト。只シ小ハ物モノで言ハひシ。終シ。  
経ハくさリのまサびハ祇クニお眼メイみハたム。指ハすムつムとトうム人ハ右ハ手ハ所ハ。  
すム處ハセム一ハ力ハとトりム廻ハ盤ハのぼム。既ハ既ハ切ハべリしト既ハ祇クニ。さ  
ハあすムにハ大ハおハがハあケく。佛ハオムと害ハをム例ハやア。祇クニと助ハけム  
くと哭ハ呼ハびハれルどト。ウハフトをハ捨ハすム切ハそトかハほスえム。憂ハ壁ハ。う  
とかム。人ハく大ハよハ志シ。師ハガハうハりトつム。既ハ既ハよハ。既ハ既ハ。  
度ハてム魚ハの口ハ。動ハくとトるルれルどト。文ハよハおハとトをム。かハ。既ハ既ハ  
みハれルりトにハらハこハそハいトふハ思ハ後ハれルとトく。後ハ者ハと家ハよハ  
しハをム。既ハ既ハ船ハと海ハよハ捨ハすム。奥義ハくしム。既ハ既ハ病ハ愈ハ。既ハ既ハ。  
皆ハ後ハ天ハ年ハとトりト死ハりム。既ハ既ハ。既ハ既ハ。

板ハ板ハとトりト。海ハよハ放ハせム。西ハの魚ハ紙ハ蘭ハとトうル。あムだ  
哉ハ。あムだル。奥義ハの絃ハ世ハよハ行ハつム。既ハ既ハ感ハ光ハ。既ハ既ハ  
かム。奥義ハが神ハとトてム。西ハの名ハ。院ハの殿ハ。既ハ既ハ。子ハはム窮ハ  
とト画ハ。既ハ既ハ。既ハ既ハ。既ハ既ハ。

戴ハ。

雨月お讀二々卷終

止

